

II 教育課程の大綱

1 地域と児童

(1) 地域の実態

- ① 学区は、国仲平野の西端に位置し、東端の両津と相對している。北は相川方面、南は小木方面、東は両津方面からの最短距離にある。中世には東福城下の歴史をもち、行政・文化・物資の集中する商業の町として発展してきた。
学区には諸官庁・会社等の出先機関が多い。その宿舎や県営、市営の住宅があり、民間アパートも多い。生活の便利さから、住居を当学区に置き他地区の職場へ通勤するサラリーマンも多い。
- ② 学区には、古くから県立佐渡中学校・同河原田高等女学校（現在は統合して県立佐渡高等学校）が置かれ、島内の教育の中心であった。本地域住民の教育に対する関心は、伝統的に高いものがある。
- ③ 保護者の職業は、商工業、会社員、公務員等が多い。また、数年で異動するいわゆる転勤族の家庭も多い。
- ④ 古くからの商業地であるが、住宅地としての機能も増しており、職業構成も多様化する傾向にある。
- ⑤ 以上のような立地・生活環境から、都市型生活の一般的な特性を有している。

(2) 児童の実態

- ① 当校の子どもは、都市型の特徴を多く有している。
- ② 明るく活気があり、人前でも気後れしない子が多い。
- ③ 目標が定まると意欲的に取り組む。下級生を世話し、掃除なども真剣に行う。
- ④ 言葉遣いやあいさつ、相手を認め互いに助け合う態度の育成が課題である。
- ⑤ 対人関係などに問題を抱える子どもがおり、きめ細かな観察と指導が必要である。

2 学校経営の方針

(1) 教育目標 よく学び よく遊ぶ たくましい子

(2) 年度の重点目標

- かかわり合って考えを深める
- 励まし合ってやりとげる子
- 進んで体をきたえる子

キャッチフレーズ

しあわせな学校をつくろう

- ① しっばいをおそれずにチャレンジする人になる
- ② ありがとうと声に出せる人になる
- ③ わからないことを友だちに聞ける人になる
- ④ せいいっぱい心と体をきたえる人になる

(3) 目指す学校像

① 子どもが生き生きと学び、自分らしさを発揮して輝く学校

子ども一人一人の個性を伸ばし、成長や幸せを最優先に考える学校でありたい。そのために、「自分たちでやりとげた」という満足感や充実感を味わえるような魅力ある教育活動や夢中になって学び合う授業、一人一人が活躍できる場の設定などを意図的・計画的に組織していく。

指導の構えとして、「聴くこと」と「ほめること」を大切にし、子どもに寄り添い、支え、励ます共感的な姿勢をもつ。また、「ならぬことはならぬものです」と譲らない一貫した姿勢の両面をもって根気強く指導に当たる。

全職員が全児童の担任という体制の下、児童理解に努め、児童の心の変化をきめ細かく見取りながら、情報を共有して、心のこもった教育を目指していく。

② 家庭・地域に信頼され、地域に貢献しようとする子どもを育てる学校

家庭や地域を取り巻く環境が大きく変化する中で、連携を深め信頼関係を築いていくことが年々難しくなっている。それゆえ、保護者や地域の願いをしっかりと受け止め、誠意をもって対応する基本姿勢を大切にするとともに、学校の敷居を低くして、気軽に来校しやすい学校づくりを心掛ける。

また、広報活動を積極的に行い、学校の教育方針や教育活動を子どもの姿で丁寧

に伝える努力を重ねていく。学校の現状や課題を家庭や地域・関係機関と共有する中で、「協働」や「参画」の必要性を伝え、学習ボランティアとしての支援を働きかけていく。学習参観から学習参加へと保護者の意識を変えていくようにする。

地域と関わる活動がこれからも大切である。しかし、ただ関わるだけでは不十分である。子ども自身が、地域のために何ができるのかを考えて行動することが求められる力であり、そのことが自己肯定感にもつながる。総合的な学習の時間や生活科での学習はもちろん、学校の様々な教育活動を中核に、地域にかかわる教育活動を工夫する。「地域の学校」としての存在感を高め、地域貢献や未来への展望につなげるようにする。

③ 同僚性・協働性を高め、教職員がチーム河小として学び合う学校

教育は人なりという言葉のとおり、教え導く立場にあるものとして、人間力を磨き授業で勝負する教師力を磨いていくことがより一層求められる。年齢や経験にかかわらず、常に学ぶ姿勢をもち、それぞれの持ち味を生かしながら、豊かな発想で学校経営に参画し、自らの力量を高めていく学校を目指していく。

当校は、校内研修への真摯な取組を通して同僚性が年々高まり、コミュニケーションが密になってきている。「共に学び合うチーム河小」としての連帯感や指導力が高まってきている。決して馴れ合いになることなく、お互いに学び合い磨き合いながら学校全体が伸びている。その伸びが児童の成長につながっている。

同僚性・協働性を高め、多くの課題を前向きにとらえ、お互いの実践に学び合う姿勢を大切にして、より質の高い、創造的な教育を目指していく。

(4) 目標達成のための努力事項

① 統合後の子どもたちの学校生活がスムーズに移行できるように配慮し、子どもたちの指導・支援に努める。

学校統合一年目は、教育活動全般にわたり、戸惑うことが多々あると思われる。子どもたちの学校生活がスムーズに移行できるように細部にわたり配慮するよう心がける。一クラス30人前後になり子どもたちの人間関係も広がるので、子ども同士の間人間関係に目を配るようにする。子どもたちに統合してよかったと思えるよう、教職員は意思疎通・共通理解を図りながら、同じ学校の教職員としてスクラムを組んで進めていく。

② 学び合う学習を推進し、授業改善に努めることで、確かな学力を育てる。

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用した課題解決学習を進める。
- 学ぶ意欲を高める課題づくりを充実させ、思考力・判断力・表現力を育てる。
- 一人一人の理解度や特性に配慮したきめ細かな指導を行う。
- 子どもの発言を大切にするとともに発話量を増やし、言語力を強化する。
- 学びのユニバーサルデザイン（UDL）を配慮した授業を実施する。

③ つながり感を大切にし、思いやりと社会性を育成する。

- 特別活動や道徳の指導を充実し自他のよさを認め、励まし合う学級や集団をつくる。
- かっぱ班活動や行事でのかわりあいを仕組み、適切な指導支援や賞賛に努める。
- 子ども自身の主体的な活動を推進する過程で、社会規範や実践意欲を育てる。
- 校内委員会やコーディネータを活用し、特別支援教育の充実を図る。
- 「ほめ言葉のシャワー」など、ほめる場と機会を設定し児童の自己肯定感を育む。

④ 挑戦する気持ちを育て、気力と体力の充実を図る。

- 運動する楽しさと運動量の確保に努め、自主的・意欲的な体力づくりを推進する。
- 結果よりも挑戦する気持ちや努力の過程を認め賞賛する。
- 子どもの実態を見極め、個に応じた課題設定や解決までの支援の在り方を工夫する。
- 目標達成に向けて、粘り強く自分を鍛える過程で、忍耐力や体力の増強を図る。

⑤ 広い視野に立ち、夢や希望をもって自立を目指すキャリア教育の充実を図る。

- 読書や自然体験、創作活動など教育活動全体を通して豊かな感性と生きる力を育む。
- 佐渡学、河原田学の学習を充実させ、視野を広げ、夢や希望、誇りをもたせる。
- 新たな視点から見つめ直したり考えたりできるよう、体験や活動内容を吟味する。
- 多様な価値観と触れあう活動を通して、考え方や生き方の幅を広げる。
- 地域との連携や幼保小中の連携をより一層高める。